

いのちを大事に。あの日と今日について考える。

平安女学院中学校高等学校も3月から新型コロナウイルス拡散の影響により今もなお新学期は始まっていません。例年なら新入生を向かえ初々しい雰囲気にもなっていますが、自宅学習をせざるを得ない状況です。9年前に起きた東日本大震災、4年前に起きた熊本地震は新学期の前後に起きたことで学校生活に大きな影響を及ぼしました。**生徒たちの学ぶ権利がおびやかされた場面で、過去の教訓を思い出し、次にクラスメイトに会える日まで私たちはどのように過ごしたらいいのでしょうか。**

河出書房新社から出版された14歳の世渡り術シリーズより『特別授業 3.11 君たちはどう生きるか』のページを紹介し、災害が起きたときの気持ちと現在の社会不安と重なるものが所々あります。



※被災地では数ヶ月このような形態で授業をしていました。

特別授業 3.11 君たちは どう生きるか

| | |
|-------------|------------|
| 国語 ▶ あさのあつこ | 政治 ▶ 橋爪大三郎 |
| 歴史 ▶ 池澤夏樹 | 理科 ▶ 最相葉月 |
| 倫理 ▶ 鷲田清一 | 経済 ▶ 橘木俊詔 |
| 地理 ▶ 鎌田浩毅 | 保健 ▶ 齋藤環 |
| 課外授業 ▶ 田中優 | |

**豪華教授陣による
全9教科、紙上特別授業!**

14歳の世渡り術 **何が問われ、何を学ぶべきか。**

河出書房新社 定価(送料)200円(税別)

☑ ケース1：放射線とトラウマ (精神科医 齋藤環さんのページ)

眼に見えない「放射能」の影響で、たくさんの方が住む場所を追われ、あるいは差別されたり、傷つけられたりしている現実がある。たとえば、福島出身の人に対する差別という問題もあった。福島へ行こうとしただけでタクシーの乗車拒否にあったとか、福島から避難してきたと言ったらホテルに宿泊するのを断られたとか、福島からの転校生というだけでいじめられたとか同じ日本人として恥ずかしくなるような話をたくさん耳にした。(中略) 眼に見えず、その影響を確かめようのない放射能は、こうやって人々のところをむしばんでいく。こういう場合のところのケアで一番有効なのは、加害者がきちんと責任を取ることと、被害がしっかり補償されることなんだけどなあ。

☑ ケース2：ハサミ状格差（精神科医 齋藤環さんのページ）

だんだん日常が戻ってくると、場合によっては、もともとあった問題がより極端な形で現れてくるってこともある。もともと学校を休みがちだった子供が完全に不登校になったり、ただのお酒好きがアルコール依存症になったりとかね。うつ病やてんかんなどの病気が、被災して病院に通えなくなったために再発したり。いや、個人の問題だけじゃない。あんまり仲の良くなかった夫婦が、被災してから離婚しちゃったり、なんて話も聞いた。（中略）つまり被災することで、もともとあった微妙な差が、すごく拡大されることになるんだよね。これを「ハサミ状格差化」と呼ぶ人もいる。貧富の差、人間関係の多い少ない、そんなものまでが、被災したことで残酷なまでにはっきりとした違いとして現れてしまうんだね。だから「こころのケア」においてもトラウマの治療だけじゃなくもっと日常的な病気の知識や治療法が大切になってくる。

☑ ケース3：与えられるより「作りたい」（NGO 活動家 田中優さんのページ）

毎日、支援物資で配られるおにぎりを食べていて、何日も与えられるばかりの暮らしが続いていました。その状況を見て「ここで何かを配ることはしたくない」と思い始めました。避難所では「待ってるだけ」の生活が続き、お母さんたちも「作る」ということがない1ヶ月でした。そこで、「この遊び場で、みんなで作ってみんなで食べよう！」と提案したのです。与え続けられてきたことへの反動なのか、食事を作っているお母さんたち、子どもたちは、とてもイキイキしていました。自分たちで作ったものを、ボランティアに「食べてください」と逆に持ってきてくれたりもしました。与えられるだけではなく、何かを作りたい、自ら動きたいという気持ちが被災地の人たちの心の中で大きくなっていくことに気付いたのです。

☑ ケース4：気休めが被害を拡大する（NGO 活動家 田中優さんのページ）

ここで注意しておきたいのは、被害を過小評価しているとか思えない考え方が横行している現実です。多くの人たちが、正しい知識を得ようとせず、この深刻な事態に、直視しない・向き合わないことで過ごそうとしているのです。その結果、深刻なレベルで汚染されているというのに、具体的な対策もなくそのままにして、むしろ深刻さを訴える人に対して攻撃的になったり、安易に「大丈夫ですよ」といつてくれる人を崇めたてたりしているのです。正しい知識と対策がないままであれば、現地での被害も広がり、さらにボランティアがたくさん入れば、そこでも被害が広がってしまうことになるというのに。

あなたも実行委員になりませんか！！

東日本被災地応援実行委員会は「被災した方々に寄り添うこと」を目指して、募金やお手紙・支援物資を送る活動をしています。自然災害に対する意識を高めるために去年は宮城県・岩手県を訪問して、現状を学び、発信してきました。できることは小さなことから。**是非、私たちの活動に加わってほしいです。学校が再開されたら会議室Aで、毎月の定期ミーティングをします。他の部活動とかけもちすることも可能です。新しいメンバーの参加を心待ちにしています！！**

